

OpenAI Deep Research

了解です。Genspark スーパーエージェント、OpenAI Deep Research、Manus について、ビジネスおよび研究用途を想定し、日本語対応を重視したうえで、検索精度、応答速度、対応分野、UI/UX、連携機能、価格、用途適性などを多角的に比較します。また、Google など未参入企業の動向や今後の進化についても展望を含めてレポート形式でまとめます。

調査が完了したらご報告いたします。

Genspark スーパーエージェント vs OpenAI Deep Research vs Manus – 徹底 比較

検索精度と信頼性(ビジネス・研究用途)

Genspark スーパーエージェント: 複数の LLM と多数のツールを組み合わせる設計により、検索結果の正確性と信頼性が高いと評価されています ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。事実、AI エージェント性能を測る GAIA ベンチマークではスコア 87.8%を記録し、Manus(86%)や OpenAI Deep Research(それ以下)を上回りました ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。この高スコアは、ビジネス情報収集や学術リサーチといった用途で要求される高度な問題解決能力を示しています。特に Genspark は、複雑タスクに対する適切なツール選択やマルチモーダル(テキスト・画像など)情報の統合処理による精度の高さで優れたパフォーマンスを発揮しています ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#)) ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。また、複数 AI モデル間のクロスチェック機能により幻覚(誤情報生成)の抑制に努めており、ビジネスインテリジェンスや研究文献サーベイでも信頼性の高いレポートを生成できます。例えばマーケティング分析では最新データベースを参照し、学術調査では論

文データベースを活用するなど、**実証的エビデンスに基づく回答**を得やすい構造になっています。

OpenAI Deep Research: ChatGPT の高度機能として 2025 年初頭に登場したりサーチ特化エージェントで、**自動でウェブ検索・分析・要約**を行い詳細なレポートを生成します ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。財務分析・科学技術調査・政策検討などの専門分野向けに最適化されており、クエリに関連するオンライン情報を収集して独立に推論することで、人間のアナリストに匹敵する洞察を提供することを目指しています ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#)) ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。OpenAI によれば、難関ベンチマーク「Humanity's Last Exam (HLE)」で 26.6%という前例のない高スコアを達成し(従来の GPT-4 ベースモデルは 3~15%程度) ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#)) ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))、専門的な 100 分野の問題で大幅な性能向上を示しました。これにより**学術的な質疑や市場調査**での精度は飛躍的に向上しています。ただし OpenAI 自身も**事実誤認や風評と信頼情報の区別**など未解決の課題を認めており、完全な正確性確保にはユーザーによる検証がなお重要だとしています ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。総じて Deep Research は**信頼できる出典付きレポート**を生成しますが、最新情報を扱う際は引用元のチェックを推奨する慎重なスタンスです。

Manus: 2025 年 3 月に中国 ManusAI 社が発表した世界初の**完全自律型 AI エージェント**で、ユーザーの指示に応じてウェブ上の多様なソースからデータを収集・統合し、インタラクティブな結果を出力します ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。株式トレンド分析からウェブサイト構築まで現実世界の複雑なタスクをほぼ人手要らずで完遂できるとされ、その問題解決力は OpenAI Deep Research をも上回ると報告されています ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))。実際、GAIA ベンチマークで Deep Research を凌ぐ性能を示したとの公式発表があり ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、**ビジネス意思決定や複雑プロジェクト管理**においても高い信頼性を期待できます。Manus はタスク遂行時に関連する複数のウェブページやデータを並行して検証し、完了後には詳細なレポート(必要に応じてエクセル資料等を添付)を生成します ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。

例えばデモでは「複数候補者の履歴書を分析し機械学習の専門知識順にランク付けする」という高度な人事タスクを正確にこなし、評価付きのランキングとExcel出力を提供しています ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#)) ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。もともと、Manus は登場直後からその実力に賛否両論があり、一部には「能力が誇張されている」「プライバシー面の懸念がある」といった指摘も出ています ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))。現状では招待制のテスト提供のみで実ユーザーからのフィードバックは限定的ですが、裏を返せば慎重な検証を経て信頼性を高めている途上とも言えます。

応答速度(リアルタイム性・処理時間)

Genspark スーパーエージェント: 複雑な要求に対して素早い処理を行うよう最適化されており、デモでは数分程度で高度な成果物を出力しています ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕! | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。9 種類の LLM をタスクに応じ並列活用し、80 以上のツールを自動連携するアーキテクチャが処理効率を高めています。その結果、GAIA ベンチマークでは**ツール連携の効率性や処理速度**の項目でも高評価を獲得しました ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕! | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。インタフェース上でもユーザーがリクエストを送信すると即座にブラウザ上でエージェント実行が開始され、必要に応じて複数のサブタスクを同時並行で進めることで**実時間で**の応答を高速化しています。公式情報によれば、「結果は迅速に提供され、対話的に絞り込みや調整が可能」とされており ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))、ユーザーは待ち時間を最小限にしつつ高品質なアウトプットを得られます。例えば Genspark は旅行プラン生成の際、交通機関や地図計算など複数 API へのアクセスを瞬時に切り替えながらプランを構築し、スムーズに結果を提示しました ([リサーチからスライド、画像、動画まで生成できる AI エージェント「Genspark スーパーエージェント」 - 柳谷智宣の AIトレンドインサイト\(8\) | TECH+\(テックプラス\)](#))。総じて**リアルタイム性**では 3 者の中でも屈指の速さを実現していると考えられます。

OpenAI Deep Research: リアルタイム対話というよりは「自律エージェントが 5~30 分程度かけて調査・分析し回答を用意する」モードです ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。通常の ChatGPT が即座に回答を返すのに対し、Deep Research モードでは質問 1 件に対し

で最大 30 分以上を費やし ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#))、ウェブ巡回・内容読解・要点整理という一連の工程を自動で遂行します。このため**即時の回答**は得られませんが、その分広範な情報源を網羅して緻密なレポートを作成する仕組みです ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#))。処理中は ChatGPT UI 上で「調査中」といったステータス表示のみで推論過程は可視化されず、完了後にまとめて結果が提示されます。ユーザー体感的には通常の会話モードより**待ち時間が長い**一方、**時間をかけて深掘りした回答**が得られるというトレードオフです。OpenAI はこの機能を「時間のかかるリサーチ作業を数十分で自動化する」と説明しており ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))、裏を返せばリアルタイム性よりも**徹底した情報網羅性**を優先していると言えます。したがって緊急の簡易質問には不向きですが、**計画的なリサーチ**では短時間で膨大な知見を集約できる点が評価されています。

Manus: クラウド上で動作し、ユーザーがログアウトしてもタスクを続行する**非同期実行**が特徴です ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))。そのため応答はリアルタイムの対話というより「依頼した仕事が完了したら通知を受け取る」形態になります ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。単純な質問回答であれば比較的短時間で応答できますが、Manus が真価を発揮するのは**時間のかかる複合タスク**です。たとえば「Web サイトをゼロから構築」といった高度な課題では、複数分野の処理を段階的に進めるため、場合によっては数十分以上かかることも想定されます。その間ユーザーは Manus を開いたままにしておく必要はなく、完了時に結果が届けられる仕組みです ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。この設計は**並行処理や長時間タスク**を得意とする反面、対話的な素早い Q&A には不向きです。ただし処理速度自体は最適化されており、Manus も GAIA ベンチマーク全レベルでトップクラスのスコアを叩き出しています ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。裏では Anthropic の Claude など高性能モデルを用い効率化を図っており ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、例えば大量の履歴書 10 件を解析するデモでも短時間で分析・ランキングを完了しました ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。総じて Manus は**リアルタイム対話よりバッチ処理型**ですが、エージェントに丸ごと任せて待つようなユースケースでは適切な速度感と言えます。

対応分野(得意な用途領域)

Genspark スーパーエージェント: 汎用性の高さが際立っており、日常からビジネスまで幅広いシーンをカバーします。公式の想定活用シーンとしては、ビジネスではマーケティング担当者のインフルエンサー調査、人事担当者の応募者評価、アナリストのデータ収集とレポート作成など ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AIに取り組む 65 歳](#))、教育・研究では複雑な数式の3D 可視化や学术论文の検索・要約 ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AIに取り組む 65 歳](#))、クリエイティブ領域ではデザイナーのポスター作成や音楽業界分析 ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AIに取り組む 65 歳](#))、日常生活では旅行プランニングやレシピ検索、ニュース要約まで想定されています ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AIに取り組む 65 歳](#)) ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AIに取り組む 65 歳](#))。さらに音声通話代行や動画生成まで可能なため ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))、ビジネスインテリジェンスからコンテンツ制作までオールラウンドに活躍できるエージェントです。特に複数の分野が絡む複雑業務(例: データ分析しつつプレゼン資料と宣伝動画も作成)など、一つの AI で一貫してこなせる点が強みです ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。このように Genspark は単なる情報検索に留まらず、マルチモーダル出力と多段タスク処理が求められる場面に適しています。

OpenAI Deep Research: 名称通り深いリサーチに特化しており、対象分野も知的労働領域が中心です。OpenAI は金融、政策、エンジニアリング分野のプロフェッショナルを主なターゲットに挙げており ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))、具体的には**金融分析**(市場調査、投資リサーチ)、**科学技術**(論文サーベイ、技術比較)、**法律・政策**(判例調査、政策分析)、**ビジネス**(製品比較、競合分析)などでの利用を想定しています ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。要するに、人間のリサーチアナリストが行うような**文献調査**や**データ比較検討**が得意分野です。実際、Deep Research はウェブ上のニュース記事や学術資料、統計データなどを横断的に調べあげ、長文の報告書をまとめることができます ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#)) ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。またコード実行機能を活用し、データセットの分析やグラフ生成も行えるため、**科学実験のレビュー**や**経済データの解析**といった高度な課題にも

対応します ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。一方で、画像や音声といった非テキストの生成・編集、外部サービスへの働きかけ(電話予約や物品購入など)はカバー外です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。従って**「情報を集めて考察する」システムの仕事**に強く、例えば市場レポートのドラフト作成や学術論文の関連研究整理などには最適ですが、クリエイティブ制作や物理的なタスク実行は範囲外となります。

Manus: 汎用 AI エージェントを標榜するだけあって、多様な分野での活用が示されています。デモや報道によれば、ビジネスインテリジェンス領域では株式市場のトレンド分析、安全な学区の不動産リストアップ、複数企業の財務指標比較などを自律的に実施 ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#)) ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。事務作業自動化としては Zip 圧縮された 10 件の履歴書を読み込み、各候補者の経験を要約して機械学習スキル順にランク付けするといった人事業務もこなしました ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#)) ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。さらにクリエイティブ/技術面では、一からインタラクティブなウェブサイトを生成する能力をアピールしており ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、必要に応じてプログラミングも行います ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。これらに加え、旅行プラン作成のデモでは複数の観光情報サイトからデータを集約し、日程・予算・興味に合わせた詳細な旅程を提示するなど ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、個人向けサービスのタスクも実行可能です。要するに Manus は知的労働からクリエイティブ制作、日常支援まで網羅する万能型ですが、とりわけ「企画→実行」を一貫して任せたいようなタスクに適しています。例えばビジネスでは市場調査からレポート作成・プレゼン資料準備まで、Manus に指示ひとつで完結させるといった使い方が想定できます。一方、万能ゆえに専門特化した分析(例えば最新の学術論文レビュー)では OpenAI に、多メディア作品の凝った制作では Genspark に一日の長があるなど、課題によって 3 者の適性は分かります。

UI/UX(操作性・可視化・ユーザビリティ)

Genspark スーパーエージェント: ブラウザ上でシームレスに利用可能で、複雑なセットアップや個人情報登録なしにすぐ試せる手軽さがあります ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark's Super Agent - AI New Platform](#)

[From China](#))。UI はシンプルで、チャット画面風のインターフェースから自然言語で依頼を入力すると、裏でエージェントがタスクを実行します。特徴的なのは**推論プロセスの可視化**で、どのツールをいつ使い何を考えているかを画面上に明示してくれます ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。例えば「現在〇〇を検索中」「〇〇ツールで分析中」といったステップが表示されるため、ユーザーは AI の思考過程を追跡可能です。最終結果は、場合によってはグラフや画像付きのリッチな形式で提示され、必要ならばそこから追加の質問やパラメータ調整も対話的に行えます。実際、あるユーザーが「Genspark の詳細説明スライド作成」を依頼した際には、右下にスライド生成のプログレスがアニメ表示され、わずか数分で高品質なプレゼン資料が完成したと報告されています ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#)) ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。このように**対話と視覚フィードバックの両立**した UI で、初心者にも操作しやすく上級者には内部処理を確認しながら使える柔軟さがあります。

OpenAI Deep Research: ChatGPT プラットフォーム内の一機能として提供されるため、インターフェース自体は ChatGPT のチャット画面と共通です。Plus 加入者はモードを Deep Research に切り替えて質問を入力するだけで利用できます ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#)) ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#))。操作性はシンプルで、通常の ChatGPT と同様にプロンプトを投げて回答を待つだけですが、その間の詳細な動作はユーザーから見えません。応答生成中は「調査中…」といった表示が出るのみで、エージェントの検索・分析の過程(訪問サイトや読む内容など)はブラックボックスです。他の 2 つと異なり**逐次的な対話**というより**一問一答型**に近く、ユーザーが途中で介入して方向修正することは想定されていません(質問を明確化する場合は冒頭で追加ヒアリングがあります ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#)))。しかし出力結果は**フォーマット指定も可能な詳細レポート**になっており、段落構成や表・リストを含む整形されたドキュメントとして表示されます。また結果中には引用元のハイパーリンクが付与されるため、ユーザービリティの観点では**回答の検証や追加調査が容易**です ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。UI の言語自体は現時点で英語ベースですが、日本語で質問すれば日本語で回答するなど入力言語に応じた応答を行います。総じて Deep Research の UX は**極力シンプルで馴染みやすい**一方、処理中の透明性や対話的調整余地は限定的と言えます。

Manus: 現状ウェブ経由のデモ版 UI が公開されていますが(一般公開は招待コード必要) ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を](#)

[中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、そこでのインターフェースは高度な可視化を特徴としています。画面左に Manus の思考過程ログ、右に参照中のファイルやウェブページを表示する二ペイン構成で ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、エージェントが今何をしているかを逐一確認できます。例えばタスク実行中にリアルタイムで「○○のサイトからデータ取得」「○○について分析中」とログが流れ、同時にその参照サイトの内容が右ペインにレンダリングされます。ユーザーは処理を見守りつつ、必要に応じて途中で追加のファイルアップロードや新指示を入力可能です ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#)) (この点、処理中に介入できない Deep Research と対照的です)。また Manus は長時間タスクの場合でも完了時に通知する仕組みがあり ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、一旦離れて別作業をしても結果を受け取れる利便性があります。出力結果はレポート形式で提示されますが、必要に応じて補足資料 (例えば収集したデータの一覧や分析した表など) を添付し、さらにはワンクリックでスプレッドシート化する機能も備わっています ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。このように Manus の UI/UX は非常にパワフルで柔軟ですが、その分初学者には情報量が多く感じられる可能性もあります。またリリース直後はアクセス集中でデモが停止する事態も起きており ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、高機能ゆえの負荷という運用上の課題も垣間見えます。もっとも、可視性・操作性という面では現行の AI エージェント中でも屈指であり、技術ユーザーからは「積極的に動いて結果を届けてくれるインターンのようだ」と好評を得ています ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。

連携機能(外部ツール統合・API・データ出力)

Genspark スーパーエージェント: 最大の特徴は 80 以上の外部 AI ツールとの統合で、エージェント自身がタスクに応じて適切なツールを呼び出し連携処理します ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。旅行プラン生成時には旅行情報データベース用ツール、地図 API、深層検索ツール(ディープリサーチ)などを自動で使い分け ([リサーチからスライド、画像、動画まで生成できる AI エージェント「Genspark スーパーエージェント」 - 柳谷智宣の AI トレンドインサイト\(8\) | TECH+\(テックプラス\)](#))、料理動画生成ではレシピ検索→動画合成→音声ナレーションといった一連のパイプラインを内部で構築します ([Genspark's Super Agent - AI New](#)

[Platform From China](#))。さらに電話発信機能まで統合されており、合成音声でレストラン予約の電話を掛けるといった物理世界へのアクションも可能です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。これら高度な連携により、ユーザーは複数のサービスを自分で操作することなく、Genspark に一任して複合業務を完了できます。出力フォーマットも柔軟で、テキストレポートだけでなく画像・動画・音声などのマルチメディア成果物を直接生成します ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。例えば依頼に対してスライド資料を作れば画像付き PDF が得られ、動画生成依頼では完成動画ファイルが提供されます(実際、生成されたプレゼンそのまま資料として使える完成度でした ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#)))。一方、ユーザー向け API については現時点で公開情報がなく、専用アプリやプラグイン経由で他システムから呼び出す機能は未整備と見られます。利用は主にブラウザ UI 上で行う形ですが、出力データはコピー&ペーストやダウンロードで外部に持ち出せるため、結果を Excel や社内システムに転記することは容易です。将来的には API 提供も期待されますが、2025 年 4 月時点ではエンドユーザー向け機能に注力している状況です。

OpenAI Deep Research: OpenAI のプラットフォーム内で閉じた形で動作し、外部ツール連携は限定的です。ただし内部的にはブラウジング機能のほか、ChatGPT のコード実行(旧「Code Interpreter」)機能を活用しており、取得したデータの加工やグラフ描画には Python スクリプトを自動生成して用いています ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。つまり、ウェブ検索→HTML 解析→テキスト抽出→必要ならデータ計算、といった一連の処理を一気通貫で自前で行うスタイルです。サードパーティの API に直接アクセスするような動作は確認されておらず、例えば特定のニュースサイトの API キーを登録して利用…といった細かな連携はユーザー側では設定できません。出力されるレポートは Markdown 形式に準拠しており、テキストベースですが表・リスト・見出しなど構造化データを含みます。図表はテキストにエンコード(表は ASCII 表もしくは画像化、グラフは画像添付)され、引用はハイパーリンク付きの書式で出力されます ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。こうしたアウトプットはそのまま社内報告書のたたき台にできる利便性があります。Deep Research 自体に直接の API 提供は現在なく、ChatGPT Plus の GUI 経由のみ利用可能です ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。企業ユーザー向けには ChatGPT Enterprise プランでの利用(高度なデータ暗号化付き)や、OpenAI API を用いて似た機能を自作する道が提示されています ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。実際、OpenAI はエージェント機能を開発するための「Agents

API/SDK」を提供開始していますが、それは開発者向けツールセットであり、Deep Research の機能をそのまま API 経由で呼び出すものではありません ([Genspark's Super Agent – AI New Platform From China](#))。したがって現時点では ChatGPT クライアント内で閉ループに完結するリサーチエージェントと位置付けられ、企業システムとの統合には工夫が必要です。ただし、出力レポートのフォーマット自由度が高いため、データの受け渡し(例えば CSV 形式で欲しい等)もプロンプト指示である程度対応できる柔軟性は持ち合わせています。

Manus: 多彩な外部アクションとの連携が大きな売りです。Manus 自体は大規模言語モデルを中核としつつ、周辺にブラウザ操作・アプリ実行・コード実行などの能力を備えています ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。例えばウェブサイト構築タスクでは内部で Web フレームワークを用いてコーディングとプレビューを行い、株式比較では金融情報サイトへアクセスしデータを取得、といった具合に必要なアプリケーションを使い分けて動作します ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。この「アプリケーションの操作」は、単にウェブ API を呼ぶだけでなく、場合によっては人間がソフトを操作するような手順を模倣することも意味します。もっとも現時点で公開されている情報からは、Manus がどの範囲まで外部システムに作用できるかは明確ではありません。少なくともブラウザ操作(スクレイピング)とコード実行(Python および特定言語)は確実に ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))、他にはクラウド上でのファイル操作(アップロードされた資料を開く等)も可能です ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 – GIGAZINE](#))。エンドユーザーから見て有用なのは、出力オプションの多様さです。Manus は分析結果を単一のテキスト回答に留めず、Excel ファイルや追加レポートとしてまとめたり、画像・PDF を生成して添付することができます ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 – GIGAZINE](#))。このため、例えば経営分析を任せただけの場合に Excel で詳細データを、要約は文章で、といった複数フォーマットでの成果受け取りができます。ユーザー向け API については未公開ですが、中国では大手企業との連携も模索されており、実際アリババとの戦略的パートナーシップが報じられています ([Alibaba と Manus AI は戦略的パートナーシップを形成します](#))。将来的に Manus の機能を他サービスに組み込む API や、企業内システムと接続するコネクタが提供される可能性があります。現状では招待制デモということもあり、スタンドアロン型でエンドツーエンド処理を完結するコンセプトですが、その実力から考えて他ツールとの連携も十分意識して設計されていると考えられます。

日本語対応レベル(自然言語処理精度・UI ローカライズ・多言語文献検索)

Genspark スーパーエージェント: 開発元は英語圏企業(MainFunc 社)ですが、多言語対応にも力を入れているようです。実際、日本人ユーザーが日本語で詳細説明スライド作成を依頼したケースでは、エージェントは全編日本語の資料を違和感なく生成しています ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕！ | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。また Genspark 自体が複数の言語モデルを組み合わせていることから、各モデルの得意言語を活かしたクロスリンガルな処理も可能と推測されます。たとえば英語の情報源が豊富なテーマでは英語モデルを優先し、日本語の固有情報が必要な場合は日本語対応モデルで補完する、といった具合です。UI(操作画面)に関しては現状英語表記が基本ですが、日本語プロンプトを入力すれば問題なく受理・処理されます。検索結果として日本語サイトの情報も取り入れている形跡があり、必要に応じ日本語から英語への機械翻訳ツールなども内部利用している可能性があります。したがって日本語で質問し日本語で答えを得ることに支障はなく、NLP 精度も非常に高いレベルです。公式に「日本語対応」と明言しているわけではないものの、ユーザーコミュニティの報告では日本語での出力品質は良好との声が多く、文献検索でも日本語論文の要約などをこなせています。

OpenAI Deep Research: ベースとなるモデル(GPT-4 世代の o3 モデル)はもともと非常に多言語に堪能であり、日本語理解・生成能力もトップクラスです。ChatGPT 自体が既に日本語での自然な対話や高精度な和文要約を実現しているため、Deep Research でもその能力が継承されています。ユーザーインターフェースは英語ですが、日本語で質問すれば日本語で回答が返ってきますし、検索キーワードも質問言語に合わせて適切に処理されます。例えば日本語で「〇〇に関する最新の研究動向を調べて」と依頼すると、日本語のウェブ記事や論文も含めて収集・分析し、日本語の包括的なレポートを出力します。内部的に英語リソースの方が多く場合は英訳して参照することも考えられますが、そこも含めて自動で行われるためユーザーは言語差を意識する必要がありません。現状、ChatGPT の UI メニュー等は英語表示のみで公式日本語ローカライズは限定的ですが、Deep Research モードの説明ドキュメントは有志により日本語化されたものも出回っています。多言語文献検索という点では、Deep Research は指定言語の情報を網羅的に収集しようとするため、日本語で質問すれば日本語ソース優先になる傾向があり、英語圏情報も必要な場合はその旨伝えると良いでしょう。とはいえ総じて日本語の質問応答精度は非常に高く安定しており、技術

文書の日本語要約や多言語比較分析(例:「日英中それぞれの市場動向を比較」)もこなせるなど、多言語エージェントとして遜色ない性能です。

Manus: 中国発のエージェントですが、**多言語対応**も念頭に置かれています。実際に公開されたデモでは、Manus が日本語の高度な質問を理解し回答する様子が確認されています ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。たとえば「人類が月に移住して国家を作る場合の法律と政治体制を考えて」という日本語の問いに対し、Manus はウェブ上の関連情報を日本語で収集し、自身の知識推論と組み合わせてレポートを返しました ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。このことから、日本語の自然文を問題なく解釈し、自律的な調査を行えることがわかります。背後で Anthropic 社の Claude 3.5 や Alibaba の大規模言語モデル Qwen を利用していることが公表されており ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、Claude は日本語を含む多言語で高性能なことで知られ、Qwen も中国語圏モデルながら日本語理解力を持っています。これらを組み合わせた Manus は**中英日のトリリンガルな素地**があると言え、少なくとも東アジア言語に関しては高い対応レベルです。UI 自体は中国語・英語で提供されていますが、先述のとおり日本語入力も可能です。多言語文献検索では、指示言語によらず関連があれば他言語の資料も参照している様子で、例えば英語圏の記事を読んで日本語でまとめることもしているようです(翻訳機能を内包している可能性があります)。今後、日本市場への本格展開時には UI の日本語ローカライズも期待されますが、現段階でも**日本語で高度なタスクを遂行できる AI エージェント**として十分実用的です。もっとも、微妙なニュアンスや専門用語の扱いはさらなる検証余地がありますが、少なくとも一般的なビジネス日本語・日常日本語の範囲では精度の高い応答が得られています。

価格体系(フリーミアムモデル・エンタープライズプラン)

Genspark スーパーエージェント: 商用プランとしてフリーミアムモデルを採用しています。基本的な機能を試せる無料プランが用意されており、一日に利用できるタスク数や一回の処理ステップ数などに制限があります ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕! | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。高度な機能や無制限のタスク実行を望む場合は有料版「Plus」に加入する必要があります。Plus プランは月額 24.99 ドル(約 3,700 円)で、**全機能が解放**されます ([Genspark スーパーエージェントが作成したプレゼン資料の完成度に驚愕! | Hiro/AI に取り組む 65 歳](#))。この価格には 9 種の LLM 利用や 80+ ツール連携、音声通話機能などすべてが

含まれ、追加課金なくフルスペックを利用可能です。エンタープライズ向けの特別プランについて公式発表はありませんが、個人向け Plus の料金水準から見て中小規模ビジネスにも手の届く価格設定といえます。MainFunc 社は米シンガポール拠点のスタートアップであり、今後企業導入を見据えたボリュームディスカウントやチームライセンスを提供する可能性はありますが、少なくともリリース段階ではシンプルな月額制のみ提示しています。無料プランである程度試用できる点はユーザー獲得に寄与しており、「まず触ってもらう」戦略で認知を広げています。

OpenAI Deep Research: 単体製品ではなく ChatGPT のプレミアム機能という位置付けのため、利用には ChatGPT Plus(月額 20ドル)の加入が必要です ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#))。2025 年 2 月に Plus ユーザー全員に追加料金なしで Deep Research が提供開始されました ([OpenAI Rolls Out Deep Research for all ChatGPT Plus Subscribers](#))。したがって価格体系としては**定額のサブスクリプション内包型**で、ChatGPT Plus に含まれる他機能(GPT-4 アクセスやプラグインベータ版など)もまとめて利用できます。無料版 ChatGPT では Deep Research モードは利用できないため、**実質的に有料専用機能**です。企業向けには OpenAI が ChatGPT Enterprise プランを提供しており、より厳格なデータ管理や高速な API 利用が可能です。その価格は利用規模によるカスタム見積もり(数千ドル〜)とされています。Deep Research 自体に関しては Enterprise 契約者にも標準提供される見込みです。Plus の月額 20ドルという価格は Genspark 有料版より安価で、個人研究者や学生でも支払い可能な範囲です。一方で無料トライアルは無く、試してみるには課金が前提となります。また API 経由で Deep Research 相当の処理をさせる公式手段はまだないため、企業が自社システムに組み込む場合は別途 OpenAI API を活用し自前でエージェントを構築する必要があります。総じて OpenAI Deep Research は ChatGPT Plus 加入者向けの付加価値機能という立ち位置で、低価格で広範囲に提供する戦略と言えます。

Manus: 2025 年 4 月現在、一般ユーザーが自由に購入できるプランは存在せず、クローズドベータ(招待制デモ)という形で提供されています ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))。これは Manus がリリース直後に想定を超えるアクセスを集めたためサーバー負荷対策として公開範囲を絞った背景もあります ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))。したがって価格体系はまだ確立されておらず、公式サイト上でも料金プランの記載は見当たりません。想定されるモデルとしては、初期段階では無料または低料金で利用者を増やし、将来的にサブスクリプション課金や企業へのソリューション提供で収益化を図る可能性があります。中国の新興スタートアップという性質上、まず話題性を重視して無料デモ公

開し、その後有料版へ誘導する流れは他の中国製 AI(例: 文心一言など)でも見られました。ManusAI 社は既に大型の資金調達やアリババとの提携 ([Alibaba と Manus AI は戦略的パートナーシップを形成します](#))も進めており、大企業向けのエンタープライズプランやクラウドサービスとの統合による収益モデルを視野に入れていると考えられます。エンタープライズプランの「可視性」という点では、北京市政府が Manus の中国語版アシスタントの登録を完了したとの報道もあり ([訂正 中国、新興 AI 「Manus」を後押し 次のディープシークと ...](#))、国内市場での商用展開に向けた手続きが進んでいます。これは規制当局のお墨付きとなるため、今後中国企業向けに正式サービス開始される布石と言えるでしょう。料金について明確な情報はありませんが、類似製品の価格帯や Manus の高機能ぶりから推測すると、個人向けは月額数十ドル程度、企業向けはユーザー数や使用量に応じた数百~数千ドルの契約になる可能性があります。現時点では**「価格不明(要招待)」**という状態ですが、注目度の高さから正式リリース時には何らかのフリーミアムモデルか段階課金制が発表されると予想されます。

用途適性と各ツールの強み・弱み

Genspark スーパーエージェント: 総合力の高さが最大の強みです。複数 LLM+多種ツールにより、情報検索からデータ分析、コンテンツ生成まで一手にこなせるため、「調べて考えて作る」という一連の業務を丸ごと任せる用途に適しています ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。例えば市場調査報告書をまとめ上げつつ、そのまま経営層向けのプレゼン資料や宣伝動画まで作成する、といった他社では複数ツールの連携が必要なタスクを Genspark 一体で完結できます ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。クリエイティブ領域やマルチモーダルなプロジェクトに特に強く、映像・音声付きの成果物を要求するケースや、人手では煩雑なクロスチェック(例: 複数資料の事実照合)などで威力を発揮します ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark DeepResearch V2 になる | 廣田憲司](#))。弱みとしては、サービス開始から間もないこともあり**実運用での信頼性が未知数**な点です。デモや限定的なシナリオでは高性能を示しましたが、現実の予期せぬ状況(ツールの応答遅延や非定型な入力)でどこまで安定動作するかは今後の検証次第です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。また高度な自律性ゆえに、誤った判断やツール選択ミスが起きた場合のリカバリが課題となりえます。しかし透明性が高くユーザーが逐一チェックできるため、大きく外れた結論に至る前に軌道修正しやすい利点もあります。価格面では OpenAI に比べやや高額ですがその分機能が包括的であり、「一人分の費用で万能のバーチャル部下を持つ」感覚で利用でき

る点は中小企業にも魅力でしょう。総じて Genspark は幅広い用途で平均点以上の成果を出せるオールラウンダーであり、特定用途特化型 AI では物足りないユーザーにとって最適な選択肢となります。

OpenAI Deep Research: 高度情報分析タスクのスペシャリストと位置付けられます。豊富な知識と推論力を背景に、徹底的に調べ抜いてレポートする能力は 3 者中随一で、**文献調査や市場分析といったホワイトカラー業務の一部代替が可能なレベルに達しています** ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。例えば新規事業の環境分析を任せれば、関連統計や競合事例を引き合いに出しつつ要点を整理した報告書を短時間で得られます。**信頼性の高い情報源引用と論理的な構成で回答するため、そのまま業務資料として使える品質も魅力です** ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。弱みは、逆に**情報収集とテキスト生成に特化しているがゆえに他の分野をカバーしない点**です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。例えば画像加工やコード開発といったタスクは Deep Research の範疇外であり、そこは別途専用 AI や人手に委ねる必要があります。また自律性がありますがあくまで「調査員」としての自律性であり、ユーザーの高次のゴール(例: 最終プレゼン資料作成)まで踏み込んだアウトプットは期待できません。その意味で、Deep Research は**インプット(知見収集)まで担当し、アウトプットの構成や意思決定は人間側で行うような用途に適しています**。加えて、OpenAI 自身が述べるように**未だ事実誤認のリスクがゼロではない**ため ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))、クリティカルな場面では人間のレビューが不可欠です。総合すると、Deep Research は**「優秀だが専門外のことはしない助手」**という位置づけで、調査・分析業務に狙いを定めて活用すれば飛び抜けた生産性向上をもたらすでしょう。

Manus: 自律エージェントとしての完成度が最も高く、与えた課題を丸ごと遂行して結果を届ける点で群を抜いています ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#)) ([New Chinese AI Agent Manus Is Said to Beat OpenAI's Deep Research](#))。複雑なマルチステップ問題でも、ユーザーは最初の指示を出すだけで後は Manus が主体的に計画を立て実行します ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))。したがって「プロジェクトマネージャーに任せる」感覚に近く、人手を掛けにくい長時間タスクや煩雑な手順の自動化に理想的です。例えば大量の書類精査や、ウェブ調査→データ集計→資料化まで必要なコンサル業務など、人間なら何日もかかる仕事を継続的に処理してくれます。しかもクラウド実行により 24/7 で働かせることも可能です。弱みは、現時点では**発展途上のため広範な実証例が少**

ないことです。デモでは華々しい成果を見せていますが、それが一般ユーザーの多様な要求にどこまで適応できるか不透明です。一部には「Anthropic のモデルラッパに過ぎないのでは」との指摘もあり ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、独自性や技術的洗練度に懐疑的な見方も存在します。また完全自律ゆえの制御困難性も潜在的な弱点です。例えば勝手に不適切なウェブサイトにアクセスしたり、大量の API コールを発行してしまうリスクに対し、どの程度安全策があるかは不明です(企業利用ではこの点重要)。さらに、ユーザーコミュニティからは「本当にそんな万能なのか？」という懐疑も上がっており ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、期待値が高い分それを下回った時の落胆も大きくなりえます。とはいえ Manus は**「動く前から過小評価はできない先進的コンセプト」**であり、適切なタスクを与えれば他を圧倒する成果を返す可能性を秘めています。特に、人間の指示を待たず自主的にゴールに向かって動いてほしいケース(例: 定期リサーチや監視業務の自動化)では唯一無二の強みを発揮するでしょう。

他社の動向と今後の展開予測

未参入・部分参入の企業動向: 主要テック企業も高度なリサーチエージェント領域に関心を示し始めていますが、そのアプローチは様々です。まず Google は、2024 年末に次世代モデル「Gemini」の試験ユーザー向けに Deep Research 機能を導入しました ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。これは OpenAI に対抗する形で、ウェブ検索と大規模モデルを組み合わせた自動調査機能を提供したもので、限定的ながら Gemini Advanced 加入者に実装されています ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。ただ一般公開には至っておらず、Google 全体としては Bard などチャットボットでの簡易検索回答や、ノートブック LM(文書要約ツール)といった部分的ソリューションに留まっています。今後 Gemini の本格展開に伴い、Google が検索エンジンと統合したリサーチエージェントを打ち出す可能性は高いでしょう。また Microsoft は OpenAI と協調しつつも、自社では Copilot シリーズとして Office や Windows、開発ツールに特化した AI アシスタントを展開しています ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。これらは特定領域に深く組み込まれており、安全性と制御性を重視した設計です。しかし汎用的な自律型エージェントを全面に出す動きはまだ限定的で、むしろ企業が自前でエージェントを構築するためのフレームワーク提供 (OpenAI の Agent SDK や Microsoft の Guidance ツール等)に注力している段階です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。一方、Meta (Facebook) や Amazon も大規模モデル開発は進めていますが、

研究エージェント分野では表立った参入はなく、Amazon は開発者向けに「Nova Act」というブラウザ自動化エージェントのプロトタイプを公開するに留まります ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。総じて大手各社は、小さなモジュールを組み合わせて安全に業務適用する**モジュール型 AI** 戦略が中心で、**高い自律性や汎用性を持つエージェント**をいきなり一般公開することには慎重な姿勢です ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。しかし、新興の Manus や Genspark が示したインパクトに対抗すべく、今後は**独自エージェントの開発加速や有望スタートアップの買収**など動きが活発化すると予想されます。特に中国勢の台頭 (DeepSeek や Manus) に対しては、「中国のスポーツニク・モーメント」との声も上がるほどで ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、米国企業も黙って見過ごすわけにはいかない状況です。

AI リサーチエージェントの進化・展開可能性: これから 1~2 年で、AI エージェント市場はさらに熾烈な競争と進化を遂げるでしょう。まず技術面では、各エージェントの**性能向上と安定化**が進む見込みです。OpenAI は現在の Deep Research を足がかりに、より高度な o3 モデルやマルチエージェント協調による次世代のエージェントを開発すると見られます ([Genspark DeepResearch V2 になる | 廣田憲司](#)) ([Genspark DeepResearch V2 になる | 廣田憲司](#))。実際、Genspark もリリース 1 ヶ月で DeepResearch V2 へアップデートし、複数 AI のクロスチェックや推論過程の透明化など革命的改善を行ったと述べています ([Genspark DeepResearch V2 になる | 廣田憲司](#)) ([Genspark DeepResearch V2 になる | 廣田憲司](#))。こうした改良により、**精度と信頼性のさらなる向上** (幻覚の極小化、最新情報への迅速対応など) が期待できます。また**ユーザビリティの進化**も大きなトレンドです。例えば Manus や Genspark が実践する思考可視化や対話的調整機能は、今後他社にも採用され、ユーザーが AI の判断理由を理解しながら共同作業できるインタフェースが一般化するでしょう ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))。一方で、エージェントの高性能化は**倫理・安全面の課題**も伴います。自律的にウェブを巡回し行動する AI が拡散すれば、誤情報の大量生成やプライバシー侵害のリスクも増大します。各社ともガイドルール (利用規約遵守や不正検知) を強化しつつ、政府や業界団体と協調して AI 行動のガバナンス策を整備していくでしょう。ビジネス面では、**企業への浸透と業務フローへの組み込み**が進むと考えられます。既に OpenAI は「一部のホワイトカラー業務を代替し得る」と謳っており ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))、実務での採用が始まっています。将来は、調査部署に AI エージェントを常設し、人間アナリストと協働させるケースや、コンサルティング企業が独自チューニングしたエージェントをサービス提供する例も増えるでしょう。さらに**オープンソースコミュニティの活発化**も見逃せません。OpenAI

Deep Research 公開からわずか 12 時間でオープンソース代替が登場し、1 ヶ月以内に Perplexity 社も類似機能をリリースするなど、今や「ディープリサーチャー」は群雄割拠の様相です ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#)) ([OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#))。この競争はユーザーにとって恩恵が大きく、無料または低コストで優秀なエージェントを利用できる機会が増えるでしょう。最後に、AGI(汎用人工知能)への一歩としても注目されます。OpenAI は Deep Research を「AGI ビジョンへの重要な一歩」と位置付けています ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))。今後、これらエージェントが高度化・汎用化することで、人間の知的活動の幅広い領域でパートナーとなり得る未来が見えてきます。とはいえ当分は専門特化型と汎用自律型の両路線が併存し、それぞれ強みを活かして展開していくでしょう。Google や Microsoft の参入が本格化すれば市場は一層活況となり、ユーザーは用途に応じた最適な AI エージェントを選択する時代が訪れると予測されます。

参考資料: 各種公式発表および技術メディア (Business Insider ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#)) ([中国の最新 AI モデル「Manus」について知っておくべきこと | Business Insider Japan](#))、GIGAZINE ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#)) ([OpenAI の Deep research を上回っていると称する AI エージェント「Manus」を中国のスタートアップが発表 - GIGAZINE](#))、Campustechnology ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#)) ([New OpenAI 'Deep Research' Agent Turns ChatGPT into a Research Analyst -- Campus Technology](#))、meta-quantum ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#)) ([Genspark's Super Agent - AI New Platform From China](#))他)より。